

CONTENTS

▼メッセージ
土木と市民社会をつなぐ
フォーラム：田中努

▼コラム
わかり易い土木第30
土木と災害対策 第2部
：野村吉春

▼フォーラムから
▼：土木と学校教育フォー
ラムを通じた活動のご紹介
：中村俊之
▼シリーズ子どもが知りたい
土木の世界を発見！
・土木ぬりえ ③「隅田川
大橋」

▼フレンズコーナー
・住民と多様な主体のつな
がりが生む楽しい防災
：星野渉

▼事務局通信

CNCP通信

VOL.103／2022.11.5

■今月の土木■



●江戸川みんなの防災プロジェクト制作の防災マンガ（一部抜粋）
イラストで防災の知識を伝えることで、子どもや外国人、聴覚障害者等、地域に住む多様な住民に分かりやすく情報を伝えることが出来ると想い、漫画形式で制作しました。）

■江戸川みんなの防災プロジェクト

世の中には、性別、年代、家族構成、経済状況、国籍、障害・傷病の有無等の属性が異なる多様な人々が暮らしています。地震や水害等の自然の驚異は全ての人を襲いますが、それぞれの属性により被害は異なります。

”江戸川みんなの防災プロジェクト”は、江戸川区民有志を中心メンバーとする任意団体です。私達は、属性の異なる多様な住民たち各々が抱えるニーズを把握し、多様な住民たちの知恵と力を活かし、繋ぎ、災害時にみんなで助かるための活動を続けています。（星野渉）

▼フレンズコーナーに続く。

▼CNCP からのメッセージ

土木と市民社会をつなぐフォーラム

シビル NPO 連携プラットフォーム 常務理事/事務局長
土木学会/シビル NPO 推進小委員会 副委員長
メトロ設計(株) 取締役

田中 努



■土木と市民社会をつなぐフォーラムと CNCP

市民が土木のことを知っている世の中にしたい。土木について、市民も意見し、その意見が反映されるような環境を作っていきたい。そして、土木ファン、土木で働きたい人がいる、そのような状況が継続するようにしたい。

CNCP と土木学会のシビル NPO 推進小委員会は、「土木と市民社会をつなぐフォーラム」をつくり、こうした思いを実現するため、土木に関わる社会課題の解決に取り組む人々を「つなぐ」、取り組む人々と市民を「つなぐ」活動をしています。(CNCP 通信 VOL.97/2022.5 & VOL.98/2022.6 参照)

■ホームページ

フォーラムでは、CNCP のホームページを、もっと「つなぐ」活動をしやすくしようと改築をしています。上表の薄茶

1st ページ	2nd ページ	コンテンツ
HOME	About us	フォーラムとCNCP
		CNCP代表挨拶/設立趣旨/リーフレット/定款/組織・役員/電子公告(決算書)
	Members	CNCP正会員(法人・個人)/賛助会員/フレンズ/サポーター
		CNCP会員・サポーターの募集
		フォーラムメンバー
	土木に関わる人と活動	横顔(インタビュー)/つなぐ活動/社会課題への取り組み/イベント・セミナーのお知らせ
	土木のはなし	わかりやすい土木/子ども土木世界/これも土木/土木のしごと/土木Q&A
	CNCP 通信	最新号/バックナンバー
お問い合わせ	-	
会員専用ページ	経営会議/理事会・総会/規定・様式/事業関連資料/仲間からの案内/	

色は、現在のホームページには無い新しいコンテンツです。現在、機能とデザインがほぼ決定し、ページの構築に入ります。コンテンツのデータ入力は 2 月からなので、春には新しいホームページが動き出します。ホームページは、CNCP とフォーラムの共同運営になります。CNCP 通信は、ホームページのコンテンツの冊子判となります。

■フォーラムのロゴマーク

フォーラムの活動が具体化するので、ロゴマークを作りました。CNCP 通信 VOL.98/2022.6 には、右表のA案の原型が載っていましたが、さらに、シンプルに、また多くの仲間がつながるイメージにと、A案→B案→C案と発展しました。



土木と市民社会をつなぐフォーラム

この他の案もあり、合計 9 案から選定し、左下のロゴに決定しました。

今月号の CNCP 通信から、表紙と裏表紙に、このロゴを追加しました。

A案(基本)	B案	C案
コンセプト「学会と CNCP がつながり、土木が市民社会へハートを届ける」を、シンプルに。	多くの専門家、多くの市民が集まるイメージに。	学会と CNCP のロゴカラーを追加し、活気や多様性の表現に。

▼コラム

わかり易い土木：第30回 土木と災害対策 第2部

NPO法人 州都広島を実現する会 事務局長
シビルNPO 連携プラットフォーム 理事

野村 吉春



■ はじめに

今回は、そもそも「災害対策・・・って何か？」という、幅広い概念について触れました。そこで今回は、近年大きな災害に度々遭遇している体験者として、「何かリアルな話題提供を」という要望に応えて、災害現場のたいへん生々しい話題を提供しましょう。

近年は「50年に一度」と言われるような災害が、私の住んでいる広島周辺では数年を待たずに度々襲っているのが現状ですが、このレポートでは、2014年8月20日に発生した、「我が国最大の都市型土砂災害」とも呼ばれている「広島土砂災害」の一件のみに集中して解説します。

読者の皆さまへの、このレポートの着眼点を、先に列記しておきましょう。

- ① これは単なる住民ではなく、土木の専門家としての体験談であること。
- ② 土木人として、災害に対して無知であったことへの反省。
- ③ 災害に対するこの地域の脆弱性とは何か？
- ④ 私が直ちにとった行動とは何か？
- ⑤ 救助救援体制やボランティアの素晴らしい活動に感動した。

※右図（パワポの表紙）は私のNPOが地元の研究会のために作成したものです。



■ 恐怖の降雨を体験

前日の19日は大雨を予測するような兆候はゼロ。雨が本格的降り出したのは深夜の午前2～5時の僅か3時間の出来事でした。

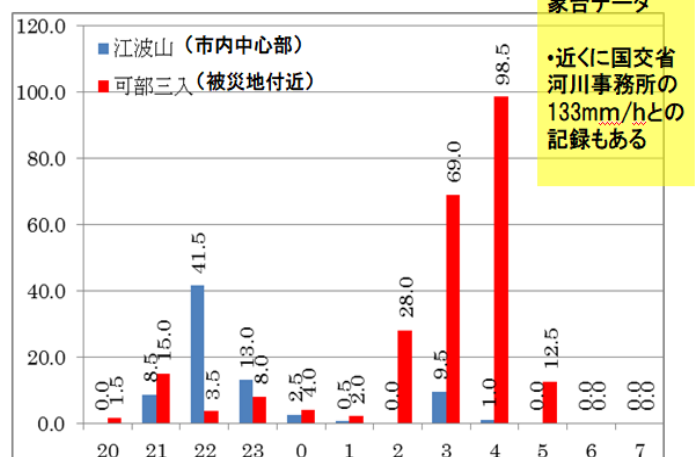
今日では「記録的短時間大雨情報」なるメッセージが携帯にガンガン入ってくるが、当時は午前0時頃に消防車が地域を巡回し、注意喚起を行っていた。その後、私を含めて誰も予想できない規模の災害が発生した。

2時から3時、そして4時頃には過去に経験したことのない時間100mmという降雨を体験した。

その降雨強度は「滝のような雨」という表現でも足りない。加えて巨大な稲妻が1分間も途切れることなく閃光を発生し、同時に大地を切り割く炸裂音が鳴り渡る。まさに戦時下の爆撃音を想像させる未体験の恐怖に襲われました。

おそらく時間50mmの雨を10分くらいの短時間なら、何方も体験済みだと思いますが、時間100mmクラスという降雨は次元が違います。

● アメダスの雨量データ



しかも、約 3 時間にわたって、これだけの雨量が降ると、「大変な事が起きるのでは？」という、不気味な不安がよぎりました。

※右上図の当日のアメダスを参照ください。極めて局地的であることが解ります。



■ ここで死ぬ訳にはいかない

結局、一睡もできないまま、4 時半頃に空が白み始め、雨足も少し緩んで来たごろ、隣の若いお兄ちゃんが、「家の周りが海のようになってる」と大声で叫んでいる。 見ると既に道路も庭も水没し、床下浸水の状況にあり、これ以上浸水すると命が危ない。

私は当時、すでに不治の病に犯され、ベットから立ち上がるのに 1 時間を要し、更に 2 階への避難が出来ない病状で、家の中で「溺死！」という危機に迫られ、「ここで死ぬ訳にはいかない！」と、強く念じたものです。私はあの時、一命をとりとめ、治療を経ながら現在に至っています。

※右上の上の写真は、朝 7 時頃の既に水が引いた時の状況で、痕跡から床下 10cm まで迫っていました。



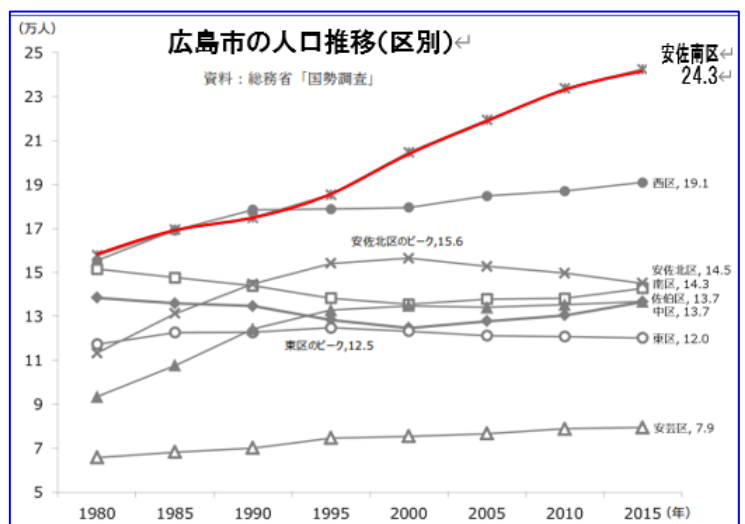
■ 土木人としての反省

家を建てた当時には、今回のような「床上浸水まで危機一髪というレベル」を全く想定していなかった。

安佐南区は右のグラフに示すように、広島市の中で最も人口の急増している地域。つまり地域の災害リスクを知らない新参者ばかり・・・私でさえ知らなかった…これは、土木人として非常に無知であったと、深く反省している次第です。

その証拠に、昔からこの地に住んでいる住民は 1m 程度の石垣を積んでその上に住居を構えている事に、気付かなかったのです。

*右上の下の写真を参照。



■ 私は言葉を失った

さて、話をもとに戻します。実は被災地では、何が起きているのか解らないのです。

前夜の悪夢が終わり、朝になると、今度は救急車や消防車のサイレンが近くや遠くに鳴り響き、上空には数機のヘリが絶えず旋回しています。自宅の床上浸水は免れたけど、何か大変なことが起きている予感がしました。そもそも、この地域は昨晚からずっと停電で TV も見れません。一体どんな地域で、どんな災害が発生しているのか、全く情報が断絶状態なのでした。

午後、何時頃だったか、私の住居にやっと電気が通じた。すぐに TV を見た。広島全 TV 局がヘリからの生映像を配信していました。私は、体が震えて言葉を失いました。

ほどなく、隣のお兄ちゃんが、「すぐ近くの歩いて 5 分ほど場所で家が十数軒ほど流されている」と教えてくれた。私も後日、見に行った。ここでも息をのんだ。「これは一体何てことだ！」と。

今現在は、ここで亡くなられた 10 名の名前が慰霊碑に刻まれています。

最終的に、「広島土砂災害」による死者は 77 名(安佐南区 75 名+安佐北区 2 名)という、都市型の土砂災害としては、我が国で最悪の事態となりました。

■ 災害の現状写真

土木人なら、目をそむけたくなる。ましてや自宅から非常に近い場所であることを考えると、決して他人事では済まされません。

*以下の写真は、自撮り及び私のNPOで撮ったものです。



緑井7丁目 (自宅から歩いて5分の上流側の惨状) ←



権現山の登山道 (約1.5km程度登った源流部の状況) ←



同上 (下流側の惨状) ←



八木3丁目 (最も被害が大きかった地区) ←



八木4丁目 (マツダの社宅などのある地区) ←

■ 記録的短時間&局地降雨という現象

過去の経験則に基づくなら、梅雨末期とか、台風による豪雨災害は多く経験しているが、今回の前日はわずかな少雨、夜半の悪夢の集中豪雨、そして翌朝は晴れという気象状況。

その上、被災地のエリアの9割は、広島市安佐南区。しかも、緑井と八木地区という「幅2km*長さ6~7km」という極めて狭いエリアに被害が集中した。

豪雨災害の頻発化、激甚化が言われ始めた時期にあって、2014年の「広島土砂災害」が教えた、この「記録的短時間&局地降雨」という現象とは何か？

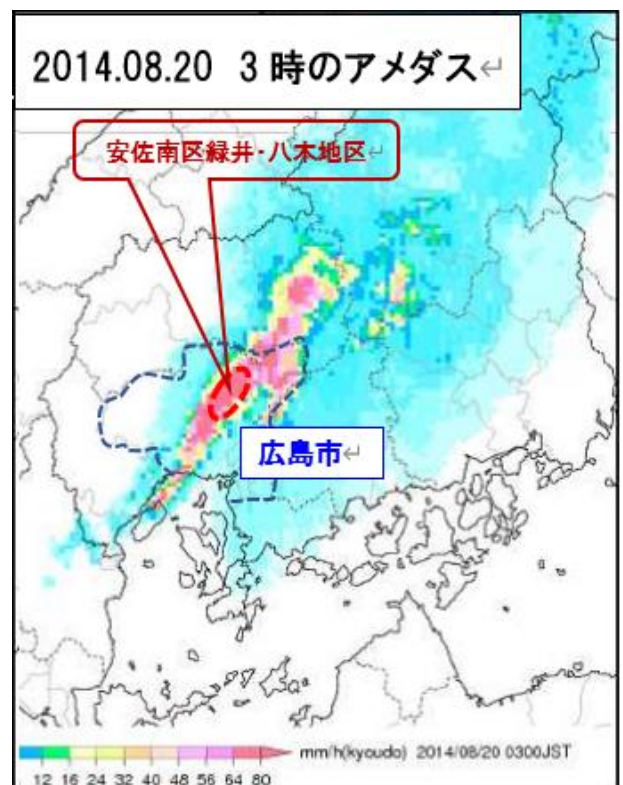
私は、豪雨災害の新たなステージとして「逃げる暇も与えない凶暴なタイプ」の出現を、目の当たりに学習しました。

■ 第3部の予告

第2部では、「土砂災害発生のリアル」を紹介しましたが、次回の第3部は今回の続編として、

- ③ 災害に対する地域の脆弱性。
- ④ 私が土木人として直ちにとった行動。
- ⑤ 救助救援やボランティアの活動。

などについて紹介をさせて頂く予定です。



以上

▼土木と市民社会をつなぐフォーラムから「土木学会委員会等の活動」 土木と学校教育会議検討小委員会

土木と学校教育フォーラムを通じた活動のご紹介

土木学会/土木と学校教育会議検討小委員会 幹事長
(東海国立大学機構名古屋大学 特任准教授)

中村 俊之



■土木と学校教育会議検討小委員会について

「公共の精神」「環境の保全」「伝統と文化の尊重」等が初等中等教育の基本目標として掲げられており、こうした基本目標の達成するためのテーマとして、河川や構造物、交通、都市・地域や防災に関わる土木における種々の営みが挙げられています。

新しい教育基本法の考え方を十分に踏まえつつ、初等中等教育における児童・生徒のシチズンシップ教育に資することを企図し、道や川、まちといった様々な社会基盤・公共財を題材とした初等中等教育のあり方を考える、そしてそれを具体的に実践していくことを目的として、私たちの小委員会では平成20年から活動しています。

■土木と学校教育フォーラムについて

異なる分野の人たちが同じ時間を共有する、言葉にすると簡単ではありますが、実際にはなかなか難しく、皆さんも日常生活や業務を通じて感じているのではないのでしょうか。私たちは、主な活動として、全国の土木と学校教育の双方の専門家と実践者が集まり、種々の研究発表、事例紹介を行い、討議する場として、「土木と学校教育フォーラム」をこれまで年1回、合計14回開催してきました(下図表)。

土木と学校教育フォーラムでは、第4回から、開催テーマを決めた開催、例えば、我が国に甚大な被害をもたらした2011年の東日本大震災後は、5年間「防災」(第5～9回)、2021年(第13回)はSDGs、今年の2022年(第14回)は学校現場におけるICTをテーマとして参加者の皆さんとのディカッションを行い、参加者皆が学べるフォーラムを開催してきました。

土木学会での会場収容人数に制約もありますが、これまでのフォーラムで対面での参加は1,000名を超え、近年はオンラインでの開催も行っています。

土木と学校教育フォーラムの特徴の1つに、実際に小中学校・高校の先生をお越しいただき行う、「実践研究報告」があります。この実践研究報告では、参加者が実際の小中学校の生徒役となり、学校での授業を体験してもらいます。

第14回フォーラムでは、文部科学省のGIGAスクール構想において1人1台の端末(PC/タブレット)と高速ネット環境時代における中学校での授業、また、ARで体験する土木現場を実際にスマートフォン、タブレットを用いて、体験してもらいました。個別最適な学びや「生きる力」の育成、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す中で、「土木」が持つ教育的資源を生かし、どのように今ある授業(学び)を充実したものとするのかを模擬授業を通じて、どのように現場で実践されているのかを学ぶことができます。

開催回	テーマ	参加者数
第1回	(テーマ設定なし)	87名
第2回	(テーマ設定なし)	106名
第3回	(テーマ設定なし)	102名
第4回	専門家とつながる土木学習	62名
第5回	防災教育のいまとこれから -巨大地震に備えて-	91名
第6回	これからの防災まちづくり・くにつくり学習-	92名
第7回	防災まちづくり・くにつくり学習の実践に向けて	99名
第8回	防災くにつくり学習の実践に向けて	91名
第9回	「学習指導要領「改訂」における防災教育	90名
第10回	まちづくりを通して、子供は何を学ぶのか	84名
第11回	「土木」を通して、子供は何を学ぶのか	82名
第12回	コロナ禍の中で改めて防災教育の可能性と課題を問う	2,804名*
第13回	土木で学ぶSDGsと学校教育	123名*
第14回	「ICTを活用した学校教育」への土木学会からの提案	47名/93名*

※第12回・第13回はオンライン開催*、第14回は対面・オンライン開催*



■土木を題材とした各種教育のあり方の検討とその実践

私たちは土木と学校教育フォーラムの開催以外にも、これまでのフォーラムを通じて、学んだことを反映した書籍の出版や実際の学校で『「防災まちづくり・くにづくり」を考える』ための副読本の製作を行いました。この副読本は、内閣府（防災担当）・文部科学省・（公社）土木学会が連携・協力したもので、実際に副読本を用いて、小中学校の先生による授業も展開されています。

学習教材『「防災まちづくり・くにづくり」を考える』は以下の内閣官房のウェブサイトからもダウンロードする、冊子希望の場合は問い合わせることができます。

(https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo_kyoujinka/textbook.html)



内閣府（防災担当）・文部科学省・（公社）土木学会/土木と学校教育会議検討小委員会とて連携・協力して作成（A4版・20ページ）



藤井 聡/唐木 清志【編】
土木学会教育企画・人材育成委員会
「土木と学校教育会議」検討小委員会【協力】
（悠光堂（2015年12月発売））

教材の内容（一部抜粋）

<p>大雨で何が起こる？</p>	<p>災害に強い「まち」、強い「くに」とは…？</p>
<p>助けてくれるひとがいる</p>	<p>安全でつよいまちをつくってみよう</p>

■小委員会のメンバー

土木分野・教育分野に所属する学識者・コンサルタント・行政等で小委員会メンバーは構成されています。教科書編纂に携わる学識者もあり、学習指導要領の中で「土木」をどのように扱うのか、実際の現場での「土木」を素材して、単元に即した授業の実施など、教育現場のニーズに即した取り組みを実践しています。

委員長：藤井聡（京都大学）、幹事長：中村俊之（名古屋大学）

委員：唐木清志（筑波大学）、工藤文三（浦和大学）、末武義崇（足利工業大学）、谷口綾子（筑波大学）、寺本潔（東京成徳大学）、原文宏（一般社団法人北海道開発技術センター）、日比野直彦（政策研究大学院大学）、福本大輔（一般財団法人計量計画研究所）、松村暢彦（愛媛大学）、宮川愛由（京都大学）、山ノ井壽昭（一般財団法人全国建設研修センター）、森本晋也（文部科学省）

■おわりに

2023年夏に、第15回土木と学校教育フォーラムを開催にむけて、現在準備を進めています。「土木」と「教育」に興味のある、どなたでも参加・出席を頂けます。詳しくは下記HPよりアクセスください (<https://committees.jsce.or.jp/education04/>)。

▼土木と市民社会をつなぐフォーラムから

シリーズ 子どもが知りたい土木の世界を発見！



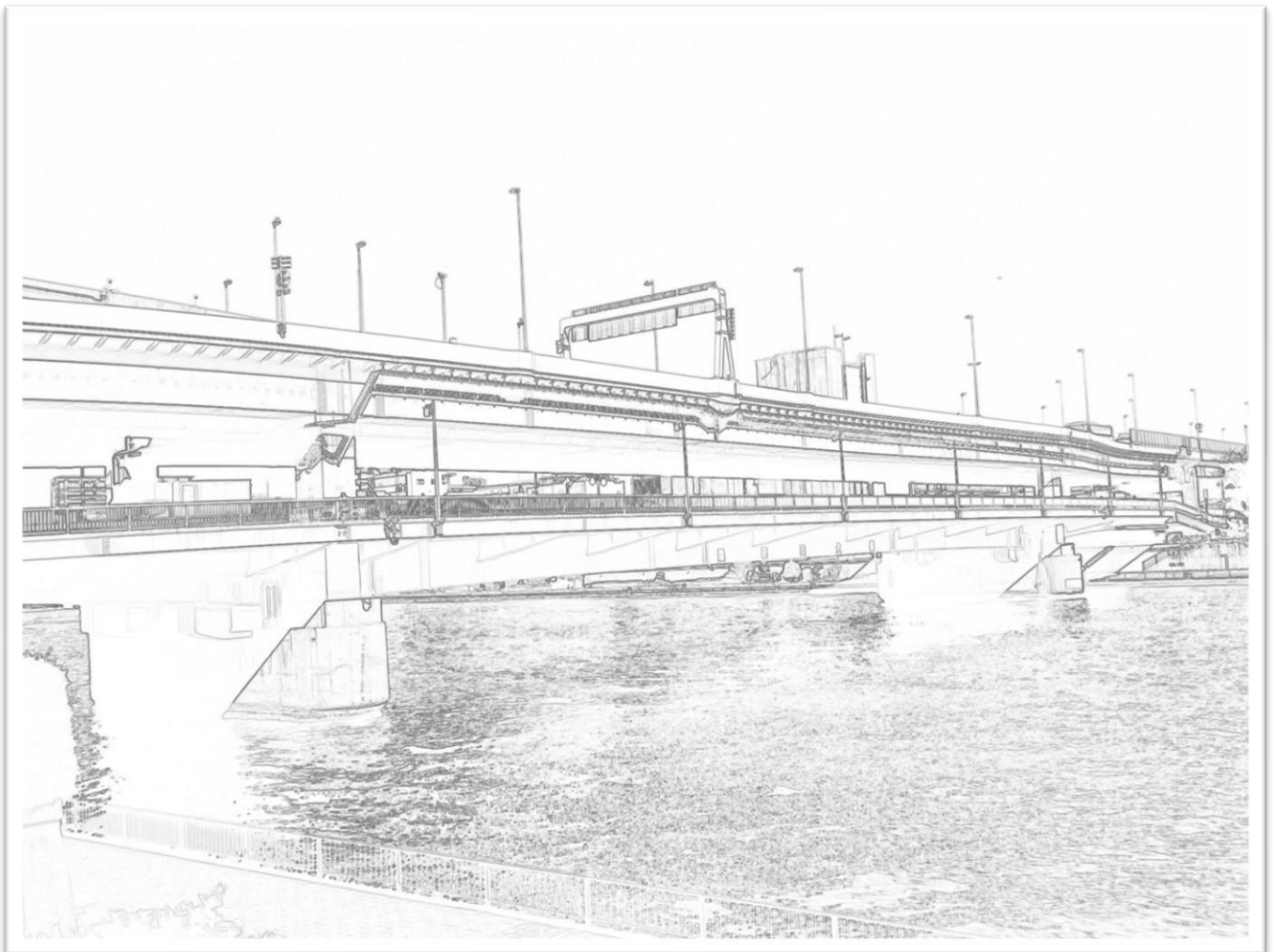
このコーナーでは、CNCP 会員や関係者の皆様から提供いただいた、土木構造物のぬりえや素敵な写真、イラストなどの作品を紹介します。



芸術の秋。カラフルインフラはいかがですか？

土木ぬりえ ③ 「隅田川大橋」

隅田川大橋は、隅田川唯一の二層式の橋で、上段は首都高速 9 号深川線、下段は都道 475 号線です。下段には広い歩道があり、東京スカイツリーや清州橋を真横から見ることができ、夜景観賞・撮影にも人気だそうですよ♪



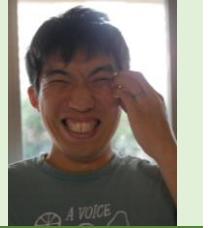
作成者：HN おかのさん 撮影場所：東京都中央区日本橋箱崎町
撮影日：2019年10月9日

おたよりは
こちらへ♪



CNCP 通信へのご意見・ご感想をお寄せください。
皆さんの作品や、ぬりえにしたいおすすめインフラ写真
なども是非投稿してください！

▼フレンズコーナー

住民と多様な主体のつながりが生む楽しい防災
～”みんなが助かる みんなで助ける” 防災を～江戸川みんなの防災プロジェクト
星野 渉

1961年の災害対策基本法制定以降、日本の優れた土木技術を基礎とした治水技術、耐震技術等を駆使したインフラの整備が進み、災害によって命を落とす人の数は大幅に減りました。ただ、災害による被害が無くなることはありません。特に、高齢者や障害者など、いわゆる避難行動要支援者が人口比に対して多く犠牲になっているという事実があります。私は、避難行動要支援者に寄り添った防災対策は、多くの人の命を救う可能性があると考えています。例えば、避難時の移動を考えると、車いすユーザーにとって避難しやすい道は、段差のないスロープです。これは、つまづきやすい高齢者やベビーカーの人にとっても避難しやすい道です。こうした考え方は国際基準や、災害対策基本法の基本理念にも通じており、考え方としては日本でも普及してきていますが、その実践は簡単ではありません。

災害時の困難を一番知っているのは自分自身です。それは障害のある方、高齢者、私のような健常者も含めて、皆さん何等かの困難を抱えています。防災に関わる自治体職員だけ、地域防災組織のリーダーだけでは、防災に関する知識はあっても、個人個人の困難に対する情報は限られています。そのため、当事者や当事者に近い立場にいる人たちとともに災害時に起こる困難を想定したうえで、自分たちにできることを考え続けています。これは、上述の避難行動要支援者に寄り添った防災対策を進める上でも大切なことであり、私が所属する団体の合言葉”みんなが助かる みんなで助ける”にも通じています。

全国ではそのような模索が各地で行われていると思いますが、今回は、筆者がメンバーとして関わっている”江戸川みんなの防災プロジェクト”の活動を紹介します。

1. 江戸川みんなの防災プロジェクト (EMINBO) とは

江戸川みんなの防災プロジェクト（以下、EMINBOという）は、地震・水害等の災害リスクの高い地域である江戸川区の区民有志による非営利の任意団体です。メンバーには、障害当事者団体、保健士、看護師、防災に関わるコンサルタント経験者等、様々な立場の人が参加しています。また、江戸川区や区内の関連団体（助産師会、ろう者協会等）等と協力し合いながら、「みんなが助かる みんなで助ける」を合言葉に防災活動を続けています。



2. 江戸川みんなの防災活動

江戸川みんなの防災プロジェクトでは、「自分自身の防災力向上のための取組み」、「協力し合える関係を平時からつくるための取組み」の二つが活動の柱となっています。以下、一部ご紹介します。

①つながる活動～防災ふらっとカフェ～

「気軽に防災について語り、つながる場」をコンセプトにした区民参加型のイベントとして「防災ふらっとカフェ」を開催しています。2018年に始まり、合計10回程度開催しました。継続的に参加して下さる区民の方もおり、メンバーとはすっかり顔見知りという関係の方もいます。このイベントの特徴として、他団体との協力開催が多いという点があります。江戸川区の助産師会や子育てサークル「江戸川ワーキングマザー交流会」、社会福祉法人等、様々な団体が伝えたいことをEMINBOがサポートする形で開催しました。区内の各種団体と一緒に開催することで、より具体的なニーズに対して語り、つながれる場ができました。



▲第4回防災ふらっとカフェ「子どもを守る親になる～防災を日常仕様に～」の様子

②防災をじぶんごとに～防災アンバサダー～

新型コロナウイルス感染症の流行をきっかけとして始めたのが、当事者同士で防災知識を普及する取り組みである「防災アンバサダー」です。防災アンバサダーは、区民自身が防災の知識を得て、それを自ら発信し広めていくことを目指した取り組みです。例えば、江戸川区のろう者協会では、まず、理事長等の一部の方が防災アンバサダー講習を受け知識を付けた上で、講習を受けた方が講師となり会員へ講習を行いました。このように区民自身が講師となり、実情を考慮した具体的な防災知識が普及啓発されることを目指して活動を続けています。先日、NHK がろう者協会の取り組みを取材し、まとめてくれました。※

※参考：NHK 取材記事 <https://www.nhk.or.jp/shutoken/article/006/42/>



▲ろう者協会による防災アンバサダー講習の様子

③防災啓発ツールの開発・発信～防災マンガ～

より分かりやすい形で区民に防災を理解してもらえようという取り組みも進めています。そのひとつが「防災マンガ」です。例えば、2019年の台風19号の経験をもとに、みんなで大規模水害からの避難を考えたいと思い、「水害からの避難マンガ」を作成しました。監修者として、アウトドア防災ガイドのあんどおりすさんや雲研究者・気象庁気象研究所主任研究官・学術博士の荒木健太郎さんをお招きしたおかげもあり、専門的な知識を分かりやすく表現することができました。監修者のあんどおりすさんが解説記事も書いてくれました。※

※参考：「リスク対策.com」解説記事 <https://www.risktaisaku.com/articles/-/32504>



▲水害からの避難マンガ（一部抜粋）

3. 活動を続ける理由

現在、EMINBOは多様なニーズに対して多様な人たちが集まり対話を続けることを試みています。マニュアルなどある訳も無く、大きな目に見える成果をあげ続けている訳でもありません。ただ、とても楽しいです。メンバーといると自然と笑顔ができます。防災活動においても気負わずに楽しむこと、日常の中で当たり前前に防災に取り組むことが出来るような活動を繋いでいきたいと考えています。私は、江戸川区在住時代にEMINBOに出会い、引っ越した後も続けています。それは、良い仲間恵まれ、楽しい時間を過ごせるからであると最近改めて思いました。

4. おわりに

現代のインフラは多くの人を救ってくれました。ただ、これからはインフラに守られているだけの時代ではなく、ひとりひとりが防災を自分事として捉え備えることで命を守る時代になりつつあると感じます。当事者がそういった防災意識を持ち発信することにより、優れた土木技術を持つ日本の技術者たちであれば、ひとりひとりの想いに沿ったインフラを整備していくことも夢物語ではないと考えています。当事者は当事者だから出来ることを、土木技術者は土木技術者だから出来ることを、お互い精一杯取り組んだ先に、災害による犠牲者ゼロとなる社会が来ると信じています。

連絡先：江戸川みんなの防災プロジェクト HP：<http://edomb.wp.xdomain.jp/>

CNCPは、
あなたが参加し、
楽しく議論し、
活動する場です！

お問い合わせは下記まで

特定非営利活動法人
シビルNPO
連携プラット
フォーム

- 登録事務所
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町
3丁目13番地7
名古屋ビル本館2階
コム・ブレイン内
- 連絡事務所
〒110-0004
東京都台東区下谷
1丁目11番15号
ソレイユ入谷

事務局長 田中努：
cncp.office@gmail.com
ホームページ URL：
<https://npo-cncp.org/>

▼事務局通信

■10月の実績

●令和4年度通常総会

開催日・場所：10月4日（火）Zoom会議
議題：令和3年度事業報告書／令和3年度決算報告書
／令和4年度事業計画書／役員の退任・新任

●第102回経営会議

開催日・場所：10月11日（火）メール審議
議題：各事業の進捗よくと予定

■11月の予定

●第103回経営会議

開催日・場所：11月11日（金）Zoom会議
議題：各事業の進捗よくと予定

■現在の会員数

賛助会員29／法人正会員11／個人正会員25／合計
65／サポーター124

●CNCPの活動には下記の賛助会員の皆さまのご支援をいただ
いています（50音順・株式会社等省略）。

アイ・エス・エス／アイセイ／安藤・間／エイト日本技術開発
／エヌシーイー／奥村組／オリエンタルコンサルタンツ／ガイ
アート／熊谷組／建設技術研究所／五洋建設／シンワ技研コン
サルタント／スバル興業／セリオス／第一復建／竹中土木／鉄
建建設／東亜建設工業／東急建設／ドーコン／飛鳥建設／土木
学会／西松建設／日本工営／パシフィックコンサルタンツ／フ
ジタ／復建エンジニアリング／復建調査設計／前田建設工業
（以上29社）

